

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害者支援課
評価対象期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立浅野社会復帰センター	施設類型	目的・機能
			I	— ⑦
	所 在 地	北九州市小倉北区浅野二丁目 1 6 番 3 8 号		
	設置目的	利用者の作業支援、生活支援、健康管理その他の支援を行うことにより障害者の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。		
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ <u>完全利用料金制</u>		
		インセンティブ制 有・ ☐ 無	ペナルティ制 有・ ☐ 無	
指定管理者	名 称	社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会		
	所 在 地	北九州市小倉北区浅野二丁目 1 6 番 3 8 号		
指定管理業務の内容		障害福祉サービス事業所（就労移行支援、就労継続支援（B型））の管理運営。		
指定期間		令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント						
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成						
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。						
② 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						
③ 利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。						
[所 見]						
【一般就労】 (単位：人)						
年 度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	12	8	8	8	8	8
実績	5	6	5	8	8	4
※ …対象年度（以下、同じ）						
①③・新規利用者の割合が高く、訓練開始間もない段階の利用者が多かったことから一般就労件数は減少したが、職場体験実習の実施や職場・生活環境のアセスメント、利用者の遂行能力や特性、得意不得意、配慮事項等を多角的に把握するように努め、支援の質を高めた結果、定着率は100%と高い水準を維持・達成している。事業計画に沿った適切な管理運営が行われており、各サービスにおいて、個別支援計画等に基づき、利用者の障害特性や個別のニーズにあったサービス提供に努めている。						
①・ハローワークや障害者職業センター、しごとサポートセンター等と連携を図るとともに、障害者合同就職説明会への参加やOB・OG職場見学会の実施のほか、企業見学や職場体験実習を希望者個人又はグループで行うなど、参加しやすい活動を提供し、就労への取り組みを強化している。						
・定期的な就労講座の開催（年36回）や個々のスキルトレーニング、グループ活動により利用者の自主性や協調性を伸ばす取り組みを行っている。一般就労後のOB・OG会は、情報交換の場として、雇用の継続に向けた支援にも取り組んでいる。						
②・区役所、特別支援学校、大学等に加え、新たに通信制学校にも送付を行うなど、広報先の拡充に取り組み、新規利用者の獲得に努めている。						
【月平均工賃額（就労継続支援B型）】 (単位：円)						
年 度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	4,800	8,000	12,000	10,000	16,000	16,000
実績	12,948	10,050	8,257	16,883	16,324	16,413
①・就労継続支援B型事業では、利用者が意欲的に参加できる生産活動（軽作業）により就労体験の提供、外出するきっかけとなる場所の提供を行っている。訓練内容としては、軽作業の種類の充実、施設外就労への参加を行い、工賃の向上や利用者の						

細かなニーズへの対応を行っている。また、企業からの作業を受託し、効率の向上のため作業工程の見直しを行い、新規施設内・外作業の開拓により工賃の維持、向上に努めている。

- ②・広報紙を年2回発行し、市内外の福祉施設、行政、病院及び配布を希望する方などに配布したほか、ホームページやSNS（Instagram）上で各事業の案内、広報誌を掲載するなど、広報活動に力を入れている。
- ・特別支援学校からの実習生の受け入れや障害者支援に積極的に取り組んでいる大学等への広報活動により、新規利用者の獲得に努めている。
- ③・他者の存在が気になる利用者の作業場として、昨年設置したキャレルデスクに加え、新たに空き部屋を活用した静穏な作業スペースの整備を行い、個々の障害特性に合わせた作業環境を整備している。

（２）利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ 利用者の生活の質の向上を目的としたボランティア等の活用が行われており、その効果があったか。
- ⑥ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所 見】

施設の総合評価

【満足度】

（単位：％）

年 度	【参考】R2年度 （更新前）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	87.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
実績（就労継続）	84.2	83.5	92.0	86.5	89.7	89.2
実績（就労移行）	90.7	85.7	96.3	93.5	100.0	96.9

- ①・アンケートの結果、施設の各サービスの「良い」、「まあまあ良い」を合わせた評価は、93.1％（就労継続89.2％、就労移行96.9％）となっており、利用者の満足度は非常に高いものとなっている。
- また、今年度は新たに、利用者が中心となり、施設独自の満足度アンケートを実施し、満足度85％と、こちらも目標値を達成している。
- ②③・利用者からの意見や苦情に対して適切に対応していくため、意見箱を設置し、毎月1回の定例利用者ミーティングにより出た意見に対して適切に対応し、より良い運営への取り組みを行っている。
- ⑤・地域行事への参加や、余暇活動（初詣、サーカス観覧、芦屋砂像展等）の充実や他事業所との交流を兼ねたスポーツ活動への参加など、利用者の生活の質の向上に努めている。また、週1回、バドミントン、ソフトバレーボール、ヨガ、ダンス等の軽運動を行うことにより、利用者の健康増進はもとより、自然な形でコミュニケー

ションを図る場の提供に努めている。 ④・利用者ミーティングに加え、定期的に家族教室を開催し、利用者や家族に対して障害者就労を取り巻く実体験の共有を図り、就労への安心感を得られるように努めている。 ⑥・個別の要望や疑問・相談事については、支援員との個別面談を通して把握し、緊急を要する内容については、電話連絡や自宅訪問等を行い適切に対応している。 送迎支援の拡充やオンライン支援の継続など利用者の障がい特性に応じた柔軟な支援体制の構築により、通所の継続や作業参加の安定化に努めた。 また、精神科医療機関との連携強化として、通院同行支援の実施や、精神科医を招聘した家族教室・職員研修を行い、支援の専門性の向上と家族支援の充実を図った。																											
2 効率性の向上等に関する取組み																											
(1) 経費の低減等																											
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。																											
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。																											
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。																											
【所 見】 【光熱水費】 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th><th>【参考】R2 年度 (更新前)</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予 算</td><td>594</td><td>556</td><td>830</td><td>1,024</td><td>799</td><td>740</td></tr> <tr> <td>決 算</td><td>555</td><td>599</td><td>786</td><td>976</td><td>775</td><td>680</td></tr> </tbody> </table>							年 度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	予 算	594	556	830	1,024	799	740	決 算	555	599	786	976	775	680
年 度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度																					
予 算	594	556	830	1,024	799	740																					
決 算	555	599	786	976	775	680																					
①・光熱費を中心とした経費節減への取り組みについては、令和6年度に電力会社を変更したことによる電気料金の削減に加え、ペーパーレスの推進やそれに伴うコピー機の機種変更や1台削減等、コスト削減に向けて意欲的に取り組んでいる。																											
(2) 収入の増加																											
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。																											
【所 見】 ・提供するサービスは、障害者総合支援法に基づく法定であり、報酬単価も国基準であるので、収入増加の工夫の余地がない。																											
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み																											
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況																											
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。																											
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。																											
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。																											
④ モニタリングの結果、施設の維持管理が適切に行われているか。																											
【所 見】 ①④・施設内において管理運営にあたる人員は適正に配置されており、施設の維持管理																											

は適切に行われている。 ②・精神保健福祉分野、依存症支援等の研修への参加や、個人情報保護研修、接遇研修及び虐待防止研修等を実施し、職員の資質向上を図っている。 ③・町内会と協働して、小倉駅周辺の街美化清掃活動（毎月１回）や浅野町緑地公園、ミクニワールドスタジアム周辺の歩道清掃を行うなど、地域貢献に取り組んでいる。 ・職場実習として、大学や専門学校等から９５名を受け入れ、将来の社会福祉人材の育成に貢献している。
（２） 平等利用、安全対策、危機管理体制など ① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。 ② 施設の利用者に対する人権が尊重され、また、身体拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 衛生管理及び感染症防止への対応が適切であったか。 ⑧ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。
【所 見】 ①②・法人の規則に則り、利用者の個人情報保護や人権尊重及び身体拘束等への取り組みにより、適切な運営に努めている。 ⑤⑥⑦・危機管理体制を整えており、ヒヤリハット意見箱の設置などにより、利用者の安全、衛生管理・事故防止に対する意識向上に取り組んでいる。 ⑧・能登半島地震や日向灘沖地震の発生を受け、大津波を想定した施設外の避難訓練（第１避難場所：小倉駅、第２避難場所：あるあるC i t y）の実施のほか、施設内での防災訓練を年４回実施し、非常時の体制整備に努めている。 ・不審者対応マニュアルの整備や警察署と協力した不審者対策訓練の実施等により、安全確保や意識向上に努めている。

【総合評価】

【所 見】 ・事業計画に沿って、通所施設の適切な運営管理を行っており、利用者の障害特性やニーズに応じたきめ細かいサービス提供に努めるとともに、利用者の満足度も非常に高い。 ・特に、職場体験実習の実施や職場・生活環境のアセスメント、利用者の遂行能力や特性、得意不得意、配慮事項等を多角的に把握するように努め、支援の質を高めている。 ・ハローワークや障害者職業センター、しごとサポートセンター等と連携を図るとともに、障害者合同就職説明会への参加やＯＢ・ＯＧ職場見学会の実施のほか、企業見学や職場体験実習を希望者個人又はグループで行うなど、参加しやすい活動を提供し、就労への取り組みを強化している。 ・就労継続支援Ｂ型事業では、利用者が意欲的に参加できる生産活動（軽作業）により就労体験の提供、外出するきっかけとなる場所の提供を行っている。訓練内容としては、
--

軽作業の種類の充実、施設外就労への参加を行い、工賃の向上や利用者の細かなニーズへの対応を行っている。

- ・ 特別支援学校からの実習生の受け入れや障害者支援に積極的に取り組んでいる大学等への広報活動により、新規利用者の獲得に努めている。
- ・ 季節行事による余暇活動の充実や他事業所との交流を兼ねたスポーツ活動への参加など、利用者の生活の質の向上に努めている。また、バドミントン、ソフトバレーボール、ヨガ、ダンス等の軽運動を行うことにより、利用者の健康増進はもとより、自然な形でコミュニケーションを図る場の提供に努めている。
- ・ 能登半島地震や日向灘沖地震の発生を受け、大津波を想定した施設外の避難訓練（第1避難場所：小倉駅、第2避難場所：あるあるC i t y）の実施のほか、施設内での防災訓練を年4回実施し、非常時の体制整備に努めている。